

神戸高校SSH事業の効果・成果に関する卒業生調査

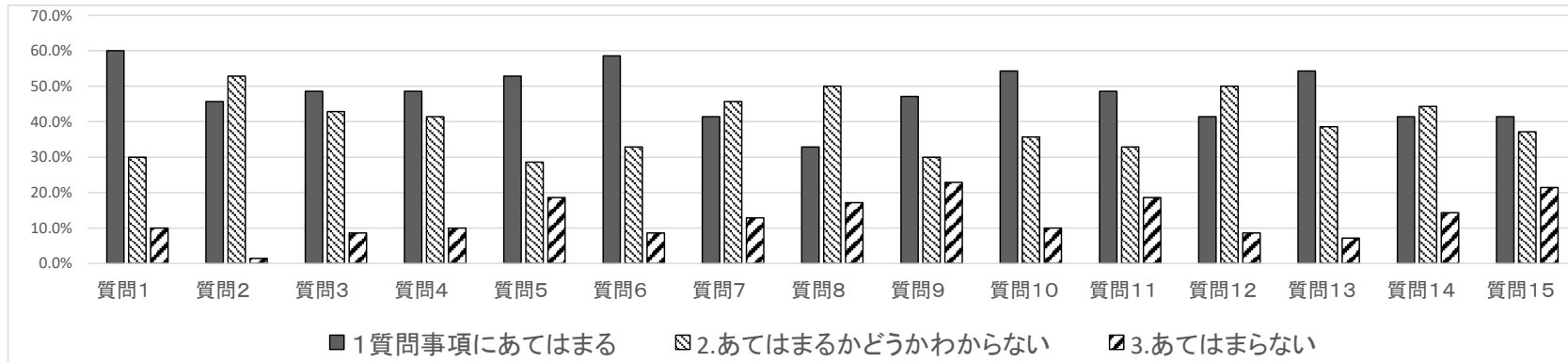
調査日時 平成29年1月

調査対象 総合理学科卒業生 平成22年3月卒～平成28年3月卒 278名

調査データ71名内訳 (平成29年1月現在)	学部生(大学2～4年)に該当する年度	43名
	修士課程(大学院前期課程1, 2年・医学部生等5, 6年)に該当する年度	13名
	博士課程(大学院後期課程1年)・社会人などに該当する年度	15名

内博士課程進学者5名

SSH卒業生調査 質問番号	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15
1.質問事項にあてはまる	60.0%	45.7%	48.6%	48.6%	52.9%	58.6%	41.4%	32.9%	47.1%	54.3%	48.6%	41.4%	54.3%	41.4%	41.4%
2.あてはまるかどうかわからない	30.0%	52.9%	42.9%	41.4%	28.6%	32.9%	45.7%	50.0%	30.0%	35.7%	32.9%	50.0%	38.6%	44.3%	37.1%
3.あてはまらない	10.0%	1.4%	8.6%	10.0%	18.6%	8.6%	12.9%	17.1%	22.9%	10.0%	18.6%	8.6%	7.1%	14.3%	21.4%
「8つの力」との対応	問題を発見する力		未知の問題に挑戦する力		知識を統合して活用する力		問題を解決する力		交流する力		発表する力		質問する力	議論する力	
1.質問事項にあてはまる	52.9%		48.6%		55.7%		37.1%		50.7%		48.1%		41.4%	41.4%	
2.あてはまるかどうかわからない	41.4%		42.1%		30.7%		47.9%		32.9%		40.5%		40.7%	37.1%	
3.あてはまらない	5.7%		9.3%		13.6%		15.0%		16.4%		11.4%		17.9%	21.4%	
質問内容	質問1 他の学生に比べて、該当分野(自分が理数科の授業や課題研究等で扱った分野)の知識が充実している方である。	質問2 他の学生に比べて、「事実」と「意見・考察」、「既知」と「課題」の区別ができる方である。	質問3 他の学生に比べて、自らの課題(レポートや研究など)に対して意欲的に取り組むことができる方である。	質問4 他の学生に比べて、問題の関連から取り組む順序(計画性をもつ)を考へることができる方である。	質問5 他の学生に比べて、データの構造化(メモ、箇条書き分類・図式化など)や分析や考察のため適切な機器やソフトウェアを使うことができる方である。	質問6 他の学生に比べて、実験器具などを正しく扱うことができる方である。	質問7 他の学生に比べて、論文やレポートをうまく仕上げる(形式を整えるなど)ことができる方である。	質問8 他の学生に比べて、該当分野(興味ある分野や調べなければならない分野)について論文や専門書を探ることができる方である。	質問9 他の学生に比べて、自然科学関連のプログラム(講演会・発表会・勉強会等)に参加することができる方である。	質問10 他の学生に比べて、その場や会において自分の役割を理解した行動をする方であり、役割を果たすことができる方である。	質問11 他の学生に比べて、発表活動(口頭、ポスター、レポートなど)に意欲的な方である。	質問12 他の学生に比べて、発表活動において効果的な資料が作れる方である。	質問13 他の学生に比べて、発表活動時、聞き手の印象に残る工夫(メモを見ない、ジェスチャーを交えるなど)をする方である。	質問14 他の学生に比べて、疑問点などについての質問をする方である。	質問15 他の学生に比べて、議論する場で発言するなど、議論をリードする方である。



あてはまる-当てはまらない

47.1%

39.3%

42.1%

22.1%

34.3%

36.7%

23.6%

20.0%

33.2%